

第500回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 平成31年4月3日（水）午前10：30より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8名

○出席委員数 7名

○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

委員長 林 新一郎

副委員長 渡辺 重久

委員 荻原 健司

委員 春日 十三男

委員 笹本 正治

委員 佐藤 裕一

委員 田中 宏昌

○欠席

委員 加藤 恵美子

○放送事業者側出席者名

外山 衆司 （代表取締役社長）

矢澤 弘 （取締役報道制作担当）

飯塚 憲彦 （取締役編成・業務推進・放送番組審議会担当
業務推進局長）

柳沢 浩之 （編成局長兼放送番組審議会事務局長）

上小牧 忠道 （編成局次長兼編成部長兼視聴者室長）

春原 晴久 （報道制作局長）

畷田 哲也 （報道部長） 番組プロデューサー

漆澤 謙治 （報道部） 番組ディレクター

4. 議題

(1) 番組審議

「NBSフォーカス∞信州 まめったい

～山あいの暮らしを後世に～」

(平成31年1月25日金曜日午後7:00～7:57放送)

(2) 視聴者対応報告 (平成31年3月分)

(3) 番組種別報告 (平成30年10月から平成31年3月まで)

(4) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・山あいに暮らす人々の生活や表情を丁寧に描き、幸せに老いる意味を問う内容。
- ・元気な住民の様子と、過疎・高齢化という重いテーマがバランス良く描かれていた。
- ・長野市中条地区の味わいある映像が良かった。山里のカット、空き家風景、トンボ、人物の皺と表情が良く捉えられ、昔の写真も加わり厚みのある映像になった。
- ・写真家服部貴康はっとりたかやすさんのコメント「そこで淡々と暮らしている人には、ある種の凛りんとした美しさがある」に共感した。
- ・過疎化・高齢化の社会問題を、山あいで生活する人々を時間をかけて取材することにより浮かび上がらせ、暗くならない番組にまとめ上げた。
- ・“笑顔”が人の元気さのバロメーターということがわかった。多くの老人の腰が曲がっていることに“労働の尊さ”を感じた。人間は本来、このような生活を送ってきた、ということを改めて認識させられた。
- ・人と人との絆の中で生きていくことは、生活の不便さに勝るということがわかった。
- ・ナレーションが良かった。
- ・映像に、人の温もりや優しさが良く表現されていた。

- ・写真集を作るのもそうだが、過去のモノを集めてまとめる、昔のことを回想して思い出すことは、実は元気になるための一つの有効な方法だということがこの番組からもわかった。
- ・番組を作るだけでなく、地区の人たちが集まるイベント（NBSホールにて開催）にも長野放送は関わった。番組と連動した、いい活動だと評価したい。
- ・写真集の編集に携わったこやま なな こ小山奈々子さん、写真家のはっとりたかやす服部貴康さんの大変な努力に敬意を払いたい。また、この活動の次のステップに期待が持てて良かった。
- ・写真集を出すのに10年かかったこと、また写真集を出版するのにかかる費用についてコメントが欲しかった。
- ・“まめったい”というキーワードを番組の要所要所で使った方が良かった。
- ・なぜ人がこれだけ減ってきてても山あいで暮らし続けるのか？生活の不便さに勝る意味をもっと引き出してほしかった。
- ・集落の位置を示してほしかった。
- ・この中条で作られた味噌が東京のレストランで出されるようになったことが、すぐ単純に将来への希望にはならないのではないか。

（2）視聴者対応報告

資料に基づき平成31年3月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

（3）番組種別報告

資料に基づき平成30年10月から平成31年3月までの番組種別について編成局より報告を行った。

（4）その他

春の番組改編について編成局より説明を行った。

以 上